

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1 ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	事業所独自の理念を掲げています。「自由」「共生」「尊厳」を大切に「その人らしさ」を尊重し、「うれしさ」「豊かさ」「快樂」「癒し」を体感しながら充実した穏やかな日々を過ごしていただけるよう取り組んでいます。		地域住民との交流が持てるよう行事等に参加し、認知症の方の生活等を理解していただきたく努力している
2 ○理念の共有と日々の取組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	朝のミーティングの際にスタッフ全員で理念を唱え、スタッフ間の共有意識また理念の意義を確認し合い、常に理念を念頭に介護従事するよう努めている		・朝のミーティング時に理念の復唱 ・新人オリエンテーション時に企業理念・ケア理念・運営基準等を指導教育
3 ○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	入居される際に利用者さま及びご家族さまへは、当所のパンフレット等を通して、伝えていきます。また、見学者の方や行事開催の際に来所される方々に玄関やリビングに掲示されているものを解りやすく説明しています。		
2. 地域との支えあい			
4 ○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	日々、挨拶を忘れることなく対話を重ねたり、当所で開催する行事には回覧板を回していただきお誘いし、参加していただいている。また、隣人の方と咲いた花を共に観賞し談話することがあります。その他、理容室の店主さんやよく行く近隣スーパーの従業員さんたちともお互いに気軽に声をかけあえるお付き合いをさせていただいています。		
5 ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内会の会合や行事等(新年会・盆踊り・清掃活動など)に積極的に参加し、交流を深めています		・町内会の会合への参加
6 ○事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	運営推進会議を通して、市で行っている認知症の方々を介護する家族の会のお知らせや介護の講演会への参加呼びかけを行っている。また、町内で独居生活を過ごされている方に対し、何かできることがないか民生委員の方へ呼びかけています。	○	・運営推進会議等の場を利用しながら、地域の高齢者の暮らしに役立てるよう積極的に取り組んでいきたい ・‘SOSやまびこ’ネットワークに対する協力体制

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	全スタッフミーティングの中で自己評価・外部評価の意義・目的を理解してもらっている。自己評価・外部評価を利用者や家族に対する私たち職員の援助方法・内容が適しているか否かを立ち止まって振り返る良い機会と捉え、事実として良い点・悪い点を素直に受け止めたなかで改善すべきところは迅速に対応している。		・評価実施前後のスタッフミーティング
8 ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	日々、取り組んでいる入居者に対するケア上の詳細内容・取り組んできた結果等を報告している。皆さんからいただいた意見は真摯に受け止め、その後のサービス向上に努め、反映させてきている。	○	・当所前にゴミステーションがあり、いち町内会会員として乱れないよう整備・清掃
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	旭川市が主催する研修会には積極的に参加している。また、困難な事例等があった場合は直接、介護高齢課の担当者に相談をして、指導・助言をいただいている。		今後も継続していきたい
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	管理者を含め、ごく僅かの職員しか理解しておらず、スタッフ全員が理解しているとは言いがたい。	○	・今後、地域権利擁護事業や成年後見制度についての研修会に参加したり、当所内でも勉強会を開催したい
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。	特に重要視し、取り組んでいる。身体的虐待だけではなく、心理的虐待にも配慮したケアに努めている。社内外の研修・勉強会に参加・開催したり、ニュースや新聞等の情報をミーティング時にスタッフ間で話し合う機会をつくって、虐待防止を図っている	○	・社内において、定期的に勉強会を開催し、具体的事例に対する職員間の意見交換をしていきたい ・外部研修も出来るだけ多くのスタッフが参加し、高齢者虐待防止関連法について、理解し遵守できるよう徹底していく
4. 理念を実践するための体制			
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約・解約時は、十分な説明を丁寧に行い、理解を得られている		今後も継続していきたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	入居者との会話の機会をもつことを各職員が念頭において、入居者の言葉・態度・表情からその思いを察し、その都度、管理者や各担当が個別に話し合う機会をつくっている。「お誕生日会」では、当該利用者の希望を事前に聴き、個別対応することがあります。		
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	ご家族の来所時に利用者の暮らしぶりや健康状態等を詳細に報告しています。また、健康状態に異変が生じた際には、その都度、直ぐにご連絡させていただいています。金銭管理については個人別出納簿で出・入金の内容を毎月ご家族に郵送しています。不定期で「愛ラブ殿通信」を発行しています。また、利用者毎に日常生活の中での写真を送りました		・ご家族からも要望があり、定期的に「愛ラブ殿通信」を発行していきたい
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	直接、家族から意見を聞いて、対応しています。日頃からご家族には何でも言ってもらえるような雰囲気作りには留意しています。		・玄関にアンケート箱を設置しています
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1回の全スタッフミーティングやユニット毎のミーティングの際に意見や提案を聞き入れる機会を設けている。その他、個別に面談も行い、話し合いの機会をつくることに留意している。		
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	利用者の状況の変化(レベル低下)により、勤務時間の変更等は事前に職員間で話し合いをして柔軟に対応している。夜間や緊急時の対応は管理者・看護師への連絡を徹底し、迅速に対応している。		
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	本年2月、突然、管理者の異動があり職員・入居者さんに影響がありましたが、最小限の影響でとどめられたと思っております。日頃から両ユニットに職員が顔を見せることで、利用者様が馴染みの支援を継続して受けられるように配慮しています。	○	・出来る限り、異動・離職は必要最小限に抑えたい ・職員との定期的面談を実施し、精神面・体力面のフォロー体制が万全なものとなるよう努めていきたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	社外で開催される研修へは、積極的に参加を促し、実際に多数の職員が受講しています。ほぼ毎月、管理者もしくは他の職員が様々な分野の研修に参加しています。毎回、研修報告書を提出してもらい、研修で得たことを再確認してもらっています。		・研修で得た内容を全スタッフミーティング時に各自、発表している
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	地域包括支援センターでグループホームの職員を集め情報交換の場を設けていただき、他のグループホームとの交流をもっている。	○	・ケアが閉鎖的にならないよう、他のグループホーム見学等の機会を多くつくってきたい
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	職員の親睦会を開いたり、業務上の悩みを個別に面談し聴取している。業務中の休憩を確保するために冷暖房・冷蔵庫を置き、畳上の台座を設置し休憩がゆっくり取れるよう配慮している。		・他のグループホーム職員との交流・親睦機会をつくってきたい
22 ○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	頻りにホームに出向き、職員個々の業務に対する姿勢等の勤務状況を把握している。全スタッフミーティング・ユニット毎のミーティングのほか、管理者・計画作成担当者・看護師とのミーティングを定期的実施し、各自の取り組み状況を把握している。		・時間をこなすだけのケアとならないよう、職員ひとりひとりの潜在能力を引き出せる環境を今後も追求し続けていきたい
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	入所前にご本人・ご家族様から利用者の今日までの生活歴や趣味・願い・要望等を面談により聞きだし、ご本人・ご家族様が不安なこと、困っていることに対して、明確に伝え、安心されるよう努めている。		・入所間もない頃は、特に本人との関わりを重点的に対応し、早く馴染んでもらうよう努めている
24 ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	現段階でご家族様が困っていること、不安なことをじっくり時間を掛けて聴く機会を設け、傾聴しています。ご家族同士の中でもご本人に対する思いや意見の食い違いがなければ配慮しながら対応しています。		・ご家族の中でも特にキーパーソンとなる方へは随時、来所時等ホーム内の暮らしぶりやご本人に対するケア方針等をお知らせし、信頼関係が構築できるよう努めています

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談利用をご家族やソーシャルワーカーから聴いたうえで見学や入所の問い合わせがあった際に当所の特徴をお伝えし、実際に本人や家族に当所を見学していただいております。現時点で当所で行えることを明確に説明し、場合によっては、他の事業所を紹介することもあります。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	ご家族にホームを見学してもらうことから始めています。ホーム内の雰囲気や職員の対応・他の利用者の様子を実際に見ていただき、安心してから入所されています。入所前の情報収集により、ご本人が望まれる生活を実現できるよう努めています。		・生活環境が変わり、ホームに馴染みづらいケースはご家族にも協力していただき、当面、来所頻度を多くしてもらったりしている
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	職員は、自分たちの人生の大先輩として尊敬を持つようになっている。ごく一般的な日常生活を共に過ごしていけるよう利用者様に出来ることを手伝ってもらっている(洗濯物たたみ、調味料等の買い物等)	○	・利用者が今日まで慣れ親しんだ生活のなかで得意なことを現生活のなかでも取り入れていきたい
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族の面会時、または必要に応じて当所から電話したり、家族から電話をいただいたりしたときに本人の当所内での様子、レクリエーション参加時の様子、通院時の状況を随時お伝えし、当所の生活・ケアプランについて共に考えるようにしています。当所での様子をお伝えし、家族と一緒に本人を支えていく関係を築く努力をしています。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	何よりご本人が一番安心されるのはご家族の顔を見たときと考察しますので、ご家族様には自由に来所していただける雰囲気づくりに努めています。ご家族様からの外泊や外出の申し出に対し、快く対応させていただいています。また、ご家族の来所が遠ざかっている方に対しては近況報告を兼ねて、電話連絡しています。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	馴染みの人にも面会に来ていただいています。居室内もなるべく本人の馴染みのものを使用させていただきよう努めています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	ひとりで寂しい思いをしないように職員が入居者様各々皆で会話に入れるよう声かけをしたり、トラブルになりそうときは職員が間に入り、話題を変えるなど利用者さん同士の関わりを大事にしています。		・各利用者の心理を把握するよう職員が感じたことを随時、記録にとつて、職員間で情報の共有を図っている
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	入院療養のため、退所された方のところへホーム内の行事でつくった料理を届けたり、職員が自発的にお見舞いに行く等、お付き合いを大事にしている。		・入院された方々への見舞い
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ひとりひとりの思いに沿った暮らしが出来るよう本人の意向を重視し、実現させるための手段を常に模索している。ごく単純な「○○が食べたい」「○○へ行きたい」等の意向を汲み取りながら、職員間で検討している。		・センター方式を利用して、利用者の思いや意向の把握に努める
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時のアセスメントでセンター方式により、本人およびご家族様から情報収集している。また、入居後も職員が会話の中で今日までの生活を聴取しながら、その都度、記録している。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	日々、個別の経過記録・介護記録により、情報を整理し、毎日の申し送りで各職員が持っている情報を報告・共有している。特に水分摂取量と排尿・排便頻度に関しては、日々重視し、本人が出来ることを見出しながら日常生活を共に過ごしている。	○	・前日との違い、一日を通したなかでの変化に気づく観察力を強化していきたい
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	毎日の生活のなかで会話や行動から本人の意見や希望を把握したり、サービス担当者会議を定期的で開催し、本人の意見やご家族からの要望を聞き、また医師からの意見書をもとに介護サービス計画に反映させて作成している。また、今現在、本人にとって何が課題なのかを把握するよう努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	定期的(概ね半年に一度)なモニタリング(担当スタッフや看護師、家族から聴取)を実施し、定期的に計画の見直しを行っている。本人のADLが著しく変化した場合、職員間や家族との話し合いを行い、新たな計画書を作成している。		次の計画書作成に当たり、現計画書の評価を行い、新たな課題が生じた場合は計画書に取り入れている
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々、個別の経過記録・介護記録により、情報を整理し、毎日の申し送りで各職員が持っている情報を報告・共有している。また、特記すべき内容は時系列に記載している。		・毎日、個別の経過記録・介護記録を記入
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	ADL低下予防運動のための器具を設置し、いつでも利用できるよう開放している。その他、ホーム内で誕生日会や各種行事等ご本人やご家族が参加できるように支援している。 ・立位不安定の方は、歩行器を使用し、所内周回している。また、所内に取り付けられている手すりを利用し、立ち上がり運動を個別に実施している。 ・健康器具のサイクリングマシンを使用し、下肢筋力の低下を防止している	○	・あきらめず、継続する
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	不定期ではあるが、「押し花教室」を実施しています。男女問わず、参加された方は皆さん喜ばれ、居室やリビングに掲出しています。消防署職員立会いの下、利用者と職員の防火訓練の実施。また、クリスマス・パーティーの際には民生委員の方に料理のお手伝いをいただいている。	○	・地域資源をもっと理解し、協働しながら支援を進めていきたい
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	他のサービスを利用するまでには至っていないが、運営推進会議や研修を通して、情報交換している。	○	・地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合う機会を先ずつくり、可能なこととして何があるかを協議していきたい ・本人、家族などの要望があれば、適宜、対応したい
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	担当区域の地域包括支援センターが主催した研修会に参加(虐待についての討論)。また、運営推進会議に担当地域包括支援センターの職員がいち介護支援専門員として、参加していただき、質問を受けたりして、情報共有している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	看護職員が常駐しており、かかりつけ医も決まっている。		・定期的に受診し、日常の健康状態を報告しながら、医師から指示を受けている
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	認知症の進行などケアの方向性が分からない時はご家族と相談して、専門の医師へ受診し、適切な治療を受けられるようにしています。		
45	○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	看護職員を配置して、その都度、対応・処置しています。また、定期受診の際は、日々のバイタル・水分摂取量を紙ベースで持参し、主治医へ経過報告しアドバイスしてもらっています。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	担当医師との連絡調整等は、看護師・管理者ともにソーシャルワーカーを介し、速やかに行っています。病院側と情報交換しながら、本人への面会も随時行い様子を伺い、出来るだけ本人が早期に退院できるよう努めている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	病状悪化の際は、かかりつけ医からご本人とご家族へ治療の方針を説明してもらい、最終的な判断はご本人もしくはご家族の意見を聞いて、尊重し、従っている。	○	・今後も重度化した場合は、迅速に医師やご家族との話し合いの場を設けて、協議していきたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	重度化した利用者の状態を医師の指示をもとに各職員間で話し合い、「できること・できないこと」を見極めながら、丁寧に対応している。緊急対応の予測できる利用者には、具体的に介護スタッフが留意すべきことを抽出し、個別ファイルに一覧掲出している		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49	○住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	当所から在宅復帰した方はおりませんが、今後はこのような視野をもって、その際は当所が持っている情報やご家族・医療機関等で得た情報を可能な限り提供し、新しい環境に馴染めるよう心がけていきます。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	ご本人の尊厳を守りつつ、専門職としての倫理を大切にしています。利用者一人一人に対し、自尊心を傷つける対応はしないことは勿論、生活意欲が沸くような対応を心がけています。具体的には入浴時・排泄時・就寝時等カーテンやドアを閉めて配慮しています。	○	・個人情報管理の徹底 ・プライバシー保護に努めた対応
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	ひとりひとりに合わせたコミュニケーションをとり、本人が納得がいくよう何度も話し、納得しながら暮らせるよう支援しています。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	起床時間や就寝時間はもちろんのこと、本人が今行いたいことを大切にし、職員が業務優先にならないよう努め、利用者ひとりひとりの希望やペースに合わせた支援を行っている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	何を着たいか選択できる方は本人に衣類を選択してもらっている。希望の美容室に行きたい方は、その要望にこたえている。訪問美容も利用している。家族の方が付いて行かれる方もいる。整髪も声かけや介助により毎日、行っている。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	自分の役目・楽しみと感じて、自らお手伝いしてくださったり、声かけによって片づけを手伝っていただける方がいます。職員の思い込みによる献立にならないよう利用者の方々に食べたいメニューをアンケートをとって、日々の献立に取り入れています。	○	・生活の中で「食事」という楽しみをいつまでも持続していただけるよう重点ポイントとして取り組んでいる。栄養士を配置している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	現在、飲酒する方・喫煙される方はいません。飲み物・おやつに関しては、主治医からの制限されている方(血糖値が高い方等)を除いて、日常的に提供しています。制限されている方も全く出さないことはせず、過度の摂取にならないよう配慮しながら提供しています。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	日々、排泄チェックしている。自ら、排泄意を感じる方は独歩でトイレにて済ませてもらい見守りしている。尿意・便意を感じにくい方は定期的に声かけしたり、トイレへ誘導している。利用者ひとりひとりの排泄パターンを職員が把握し、変化があった場合は主治医に相談して、指示にしたがっている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	概ね週2回で入浴の曜日は決めているが、要望があれば随時入浴可能な体制をとっている。入浴好きな方は入浴時間を限定せず、利用者が満足していただけるまで入浴してもらっている。入浴中に昔話などを聞いたりして、利用者と職員のコミュニケーションの場となっている。	○	・入浴拒否する方に対しては、無理強いしない
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	あくまでも本人の生活リズムに合わせて、休息してもらっています。自室で休まれている場合、体調や排泄パターンに応じて、随時、巡回・声かけを行っています		・夜間2～3時間のおきの巡回を行う事で安心・安全確認に努めています。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	その人その人にあつたケア・共同生活を心がけています(タオルたたみ、茶碗拭き、洗濯物たたみ、モップかけ等)。早朝、早めに起床される方に対し、挨拶を交わし、水分補給してもらったり、時にはモップがけのお手伝いをしてもらっている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭管理はホーム側で行っている。買い物に行く際など低額の金銭を所持してもらうこともあるが、必ず、職員が側で見守っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	天候が良く、体調が良い際に声かけし、近隣への外出機会をつくっています。近所の公園まで散歩したり、近くのスーパーまで買い物に行ったりしています。雪解け時はホーム前に設置する椅子でくつろいでもらっています。長テーブルを配置し、コーヒーや紅茶を飲んだりすることもあります。	○	・外気浴することで気分もリフレッシュされるので積極的に外出機会をつくってきたい
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	ご家族の協力を得て、お墓参りや買い物、外食をしに行く機会を設けています。年間行事のなかで遠方へのドライブを企画したり、個別でも花見に行ったり、自宅までドライブすることもあります。	○	・出来るだけ利用者が四季を感じる外出を心がけていきたい
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	ご家族から電話が来たときは、その都度入居者様に配慮しながら取り次いでいます。ご本人の希望により、居室にも電話が取り付けられる状態になっています。また、ご本人が電話をかけたいという訴えに対し、スタッフが適宜対応しています。	○	・字を書くことに自信がもてない方が多く、先ず字を書くことの抵抗を払拭し、字を書く機会をつくってきたい
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	いつでも訪問できるよう開放しています。本人の馴染みの方々が来所されたときは、「あいさつ」を徹底し、丁寧に対応するよう心がけています。帰られる際には、必ず、お客さんを玄関まで利用者さんと一緒に見送っています。	○	・どんな業務中であっても丁寧なあいさつをする
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	入居者に身体拘束していることはありません。事業者・管理者から全職員へ身体拘束についての指導を随時行っている。	○	・身体拘束に限らず、言葉による拘束をしないよう周知徹底する。「ダメ」ということばは禁句。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中、鍵をかけないので自由に外へ出られる状況だが、危険を伴う入居者もいるため、必ず、職員が同行し外に出る事を止めたりしません。一般の家庭同様、夜間のみ施錠しています。		・玄関付近への目配りを多くし、安全確認に努めています。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67	○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	職員同士が声をかけあいながら、所在を把握しています。プライバシーに配慮し、さりげない目配り・見守り・声かけをしています。		・夜間は2～3時間に1回巡回し、安全確認
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	薬の管理は、所定の場所でホーム側で管理し、誤薬することのないようにしています。また、刃物や強力な洗剤等はあらゆる危険を想定して管理している。利用者が刃物を使用されるときは職員が側で見守りしています。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	職員は、研修等で事故防止の知識を学んでいます。また、事故発生時には事故報告書に記載してもらい、その内容を必ず、職員間で再発防止について話し合うという取り組みを行っています。		・事故防止マニュアルを作成している
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	職員が救命講習を受講している。急変時の対応は看護師や管理者の指示を仰いで、適切に対処している。		・緊急時マニュアルを作成している
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	災害時に備え、避難訓練を実施しています。消防署の方に来ていただいたり、防災設備の方に来ていただいて、消火器の使用方法等の説明と実演をしていただいています。	○	・夜間帯を想定しての訓練を実施していないので、今後、検討していきたい。 ・地域の協力体制が整うまでは至っていませんが、近隣の方を含めた町内会の方々へ協力を呼びかけていきたい
72	○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	入居時の契約の際にご家族へ説明しています。入居後も状況に応じ、お話をさせてもらっています。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎朝、バイタル測定を行い、体調変化に目を配っている。変化が見られる場合は、管理者・看護師に即連絡し、対処している。変化の状態を見ながら、受診が必要なときは速やかに主治医へ連絡し指示を仰いでいます。		・褥瘡が発生しないよう留意していく
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	原則、薬の管理は管理者が一元的に管理しています。個別ファイルに薬の内容が記載されているが、全職員がすべての薬の把握するまでには至っていません。誤薬を防ぐためにスタッフが声を出しながら服薬してもらうよう留意しています。	○	・個別ファイルに綴じている薬の内容を読み、把握する
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	1日の水分摂取量と排泄量をチェックしています。定時的なトイレ誘導や腹部マッサージで便秘が数日続く場合は医師に相談しています。腸の活動を活発にする為に軽度の体操を行ったり、身体を動かす機会を設けています。		・水分摂取量、排泄量のチェック ・排便をスムーズにする食事の工夫
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	口腔状態に合わせて、口腔ケアを行っています。義歯は1日1回洗浄液につけ、対応しています。毎食後に口腔ケアを行っている状況ではありません。	○	・訪問歯科の利用で医師から定期的に口腔内をチェック
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	水分摂取量・食事摂取量はチェック表を使用し、1日の量が一目で分かるようになっています。食事が取れていない場合は、ゼリーを食べてもらったり、医師の指導の下、エンシュアを飲用してもらっています。	○	・低栄養とならないよう献立の工夫 ・体重を定期的に測定
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	日頃から手洗い・うがい・消毒を励行しています(外出して帰宅後・トイレの後等)。インフルエンザ予防接種は必ずしています。		・感染症予防マニュアルを作成しています
79 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	毎日、台所の掃除は塩素で拭く等している。調理器具についても随時、消毒しています。		・新鮮な食材を購入 ・冷蔵庫内を定期的に在庫チェックし、品質管理

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関前はロードヒーティングが施されており、冬でも安全に歩行できます。夏場は玄関前にプランターを設置し、色とりどりの花で親しみやすさを演出しています。また、玄関には職員の顔写真や絵画を掲出しています。	
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	一般家庭にあるようなソファやテレビを使用し、できるだけ木のぬくもりや草花が身近に感じられる雰囲気になっています。その場に合った照明の強弱は職員が気を配っています。	
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングにソファを置いて、自由に休んでもらっています。廊下にも木のベンチ椅子を置いていきますので運動して疲れたときなどひと休みされています。	
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時に使い慣れた家具や装飾品、写真等をもってきてもらい、居心地よく生活していただけるよう工夫しています。	
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	24時間換気システムのほか、リビング等に温湿度計をかけて、職員が配慮しています。状況に応じて、空気の入替えをしています。	・温度計、湿度計の設置 ・洗濯物を干して、湿度調整
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	手すりを可能な限り設置し、物干しも電動で上下できる為、職員と利用者が一緒に物干ししています。個人のADL状況により、歩行器や杖、車椅子を利用しています。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>各居室に表札とドアホーン(扉の開閉で音が鳴る・各人違う絵柄のもの)を取り付けています。トイレの見当識障害が見受けられる方に対して、トイレはドアの前に大きく表示しています。</p>		
87	<p>○建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>玄関前に木の椅子やベンチを配置し、職員と一緒にくつろいでもらっています。プランターで花や野菜を栽培し、職員と一緒にお世話しています。</p>		

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない ○
89	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない ○ 業務優先とならないよう利用者さんと向き合う時間を大切にしながら、皆さんがリビングに集まる機会を毎日つくり、その日その日をほのぼのとした雰囲気でご過ごしていただいています。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない ○
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない ○
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない ○ ご家族の方々にも協力してもらっている。が、どうしても遠方になるとご本人も疲れてしまうという概念が念頭にあり、全ての方に対応できているとは言い難い。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない ○
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない ○ 基本的には利用者の御要望に全て応えたい気持ちで臨んでいます。ほぼ満足はしていただいているとは思いますが、多少なりとも何らかの我慢をさせてしまっていることもあるのではと思います。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています ①ほぼ全ての家族 ②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない ○ 管理者や介護チームが積極的に対応しています。ただ、ご家族の内心には利用者を‘預けている’という気持ちがあり、全てを打ち明けてもらっているとは思えないです。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない ○

V. サービスの成果に関する項目			
項目		取り組みの成果	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	①大いに増えている ②少しずつ増えている ○ ③あまり増えていない ④全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	①ほぼ全ての職員が ○ ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない	ひとりひとりの職員が自己中心的とならないチームワークづくりに取り組んでいます。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ○ ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	私共からは満足していただけるケアに努めていますが、やはり、不満・不安は多少なりともあると思います。利用者から言われる「ありがとう」のことばが、各スタッフの喜びとなっています。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ○ ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない	ほとんどのご家族様から感謝のことばを頂いておりますが、私達のケアに対する感謝の気持ちではなく「こちらでお世話になって」という気持ちが大きいと思われまます。私達のケア方法・処置方法に対し、心から安心されるよう努めていこうと思います。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

グループホーム『殿』は、職員一同が「自由」「共生」「尊厳」を大切に「その人らしさ」を尊重し、「うれしさ」「豊かさ」「快楽」「癒し」を体感しながら、充実した穏やかな日々を過ごしていけるよう最善を尽くしています。日々の日常生活をごく自然体で過ごしていただき利用者が望んでいることをその都度、追求し続け、可能な限り、実行し叶えられるよう各職員が取り組んでいます。具体的には、ADL維持のための体操を毎日継続したり、利用者さんにとっての楽しみのひとつである食事メニューを充実させることで現入居者さんからは大変喜ばれています。